化学･生物総合管理の再教育講座（講義内容）

前期

科目No.	109	科目名	化学物質総合管理学事例研究1	サブネーム	化学物質管理事例研究1		
共催機関名	化学生物総合管理学会	レベル	中級～上級	講義枠	土曜日	講義時間	14：00～15：30，15：50～17：20
科目概要	PCB、有機水銀、臭素系難燃剤、塗料、内分泌撹乱物質、食品添加物、石鹸･洗剤など、限られた地域の公害問題ではなく広く消費者や環境へ影響する化学物質を例に、問題の発生から企業及び社会の対応の仕方の実情を紹介し、リスク管理のあり方を解説する。						

サブタイトル	№	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
ＰＣＢ	1	ケーススタディ（1）PCB	化学物質審査規制法の法制化に至った当時の社会背景とリスク削減対策としての役割を解説し、加えてPCB による汚染の状況、廃棄物問題の現状を解説する。	6月18日	101	横山泰一	製品評価技術基盤機構
	2	ケーススタディ（2）PCB		6月18日	101		
有機水銀	3	ケーススタディ（3）有機水銀問題	水俣病の発生からソーダ工業への波及及び水銀法から非水銀法への転換の経緯を解説し、化学物質に対する日頃の対応及び事件が起った場合の対応について論じる。	6月25日	101	相川洋明	日本リフォーム
	4	ケーススタディ（4）有機水銀問題	水銀法から非水銀法への転換の背景及び目的を説明する。	6月25日	101		
塗料	5	ケーススタディ（5）塗料（1）	塗料の役割と効用、塗料の構成成分と製法および塗膜形成方法、塗料のライフサイクル（製造～塗装～廃却）におけるリスクについて解説する。	7月2日	101	浦野　哲	日本ペイント株式会社
	6	ケーススタディ（6）塗料（2）	産業廃棄物への対応、有害重金属類の削減対策について事例を紹介する。	7月2日	101		
臭素系難燃剤	7	ケーススタディ（7）臭素系難燃剤	臭素系難燃剤による環境問題の発生からEUのWEEE 指令で全面使用禁止の提案がされるまでの経緯を学び、火災のリスクと環境リスクの関係について考える。	7月9日	101	横山泰一	製品評価技術基盤機構
	8	ケーススタディ（8）臭素系難燃剤	OECDリスク削減プログラムの背景及び目的を解説する。リスク削減への取り組みとして、製造企業、ユーザー企業、行政の対応を学び、リスクコミュニケーションの状況を検証する。	7月9日	101		
内分泌撹乱物質	9	ケーススタディ（9）環境ホルモン問題	環境ホルモン問題では、何が問題となり、どう展開したかを説明する。	7月16日	101	西川洋三	製品評価技術基盤機構
	10	ケーススタディ（10）環境ホルモン問題	環境ホルモン問題に対する企業の見方と対応状況を解説する。このことから今後の対応の仕方を考える。	7月16日	101		
食品添加物	11	ケーススタディ（11）食品添加物（1）	食品添加物とは何かを解説する。食品衛生法及び施行令、施行規則そして食品添加物品目リストについて説明するとともに、海外の食品添加物規制の概要を解説する。	7月23日	101	山田隆	食品添加物協会
	12	ケーススタディ（12）食品添加物（2）	過去の食品が関わった事故事例の問題点を整理し、安全性の確認、表示に関する業界･行政･消費者の取り組みを検証する。	7月23日	101		
石鹸･洗剤	13	ケーススタディ（13）石鹸･洗剤（1）	「洗浄する」ことの原理、役割と意義や洗剤の種類などについて概説する。 次に、石鹸･洗剤のリスク要因や、1970年代の合成洗剤有害論をはじめ、これまでにどのような問題が指摘され、それに対し業界が行ってきたリスク評価やリスク削減やコミュニケーションの取組みについて述べる。さらに、洗浄効果向上や繊維の負担軽減等の新たな社会的ニーズや、河川等の発泡、富栄養化、資源枯渇等の環境問題の推移に対し、どのような技術開発が行われてきたかについて紹介する。	7月30日	101	三浦千明	ライオン
	14	ケーススタディ（14）石鹸･洗剤（2）		7月30日	101		
	15	ケーススタディ（15）石鹸･洗剤（3）		8月6日	101		